

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年11月10日

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 古寺 友美・山田 郁恵・小川 君恵・菅原 千春

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?		2	7	1	10
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	2	6	2		10
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	2	7	1		10
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	2	8			10
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	1	8	1		10

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	
	・毎月のお便り配布の継続と配布地域のさらなる拡大 ・アセスメントシートを活用し担当職員が支援方法や検討など相談できる体制を作る
② 前回の改善計画に対する取組み結果	A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない
	・コロナの関係で毎月のお便りの発行と配布地域の拡大は実施できなかった。 ・担当、体制ができていなく活用までには至らなかった。
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	
	・アセスメントシートは他事業所を参考に作成中 ・アセスメントを通し支援方法の相談等は職員間でも行っていた
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点	
	・コロナの関係で毎月のお便りの発行と配布地域の拡大は実施できていない(施設行事、様子などの行事の記事が主だが、地域向けの物も検討し発行すべきだった ・アセスメントシートは現状検討中また今年度に異動が大幅にあり担当、体制ができていなく活用までには至っていない ・担当職員とケアマネジャーとで話し合いアセスメントシートを活用できればより良いと思う

III. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
	・相談からサービス開始までの期間が短く事前ミーティングを行う事が難しいケースが多かった ・必要としているサービスの提供は出来ているが必要としている支援(具体的な所)は不十分だった ・家族構成が分からず関係づくりが出来ていない ・本人のニーズや情報は共有出来ていたが、「いつから？」等の声が職員より聞こえてくることあり、個々の意識が低いと感じるときもあった。 ・ご家族と接する機会が少なく不安を受け止めるまでの関係づくりまでは難しい

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・継続

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年11月10日

2. 「～したい」の実現（自己実現の尊重）

メンバー 古寺 友美・山田 郁恵・小川 君恵・菅原 千春

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？		5	3	2	10
①	「本人の目標（ゴール）」がわかっていますか？		6	2	2	10
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか？		6	2	2	10
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか？		6	2	2	10
④	実践した（かかわった）内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか？	3	3	3	1	10

II. 前回の改善計画に対する取り組み状況

① 前回の改善計画	
・利用者の具体的な目標に対して、チームでその人に関わっていく	
② 前回の改善計画に対する取り組み結果	A:よくできている ⑩:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない
・利用者の目標を聞き出し事業所で叶えられる目標は叶えられた。	
③ 前回の改善計画に対する取り組み結果について、できている点	
・個人目標（何が～がしたい）を掲げている ・利用者の目標を聞き出し事業所で叶えられる目標は叶えている ・支援の在り方や関わり方等の共有はミーティングやスタッフ会議を通して出来ていた	
④ 前回の改善計画に対する取り組み結果について、できていない点	
・コロナの影響で外出しなければならない目標は叶えられていない ・本人の目標を一人ひとり把握できていない ・日々の関わりの中で気づきがあっても実行までにはなかなか至らず、個別支援が出来ていない ・情報共有が出来ていないためチームでの関わりにばらつきがある	

III. 現状の取り組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
・発語の少ない利用者に対して何がしたいのかをもっと聞き取れていたのではと感じる ・利用者の意欲を引き出せる関わりが出来ていなかった	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・利用者の目標に対して、具体的に個別にその方に関りを持つ。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年11月10日

3. 日常生活の支援

メンバー 古寺 友美・山田 郁恵・小川 君恵・菅原 千春

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?		9	1		10
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?		3	5	2	10
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	2	7	1		10
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?		6	4		10
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	5	4	1		10
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?		8	2		10

II. 前回の改善計画に対する取り組み状況

① 前回の改善計画	
・記録を漏らさず書くことの継続と少しの変化にも気づき、それに対する支援と情報共有をしていく	
② 前回の改善計画に対する取り組み結果	A:よくできている ⑩:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない
利用者の変化の気づきやミーティング等を通しての共有は出来ていた記録に関しても詳細に記載するようになった。	
③ 前回の改善計画に対する取り組み結果について、できている点	
・気づいた事や共有したい情報はなるべく簡単に記入している ・利用者の変化の気づきやミーティング等を通しての共有は出来ていた	
④ 前回の改善計画に対する取り組み結果について、できていない点	
・業務に追われ記録を後回しにしたことにより、記録の記入を忘れることがあった ・記録はリーダー一人で書くことよりも気づいた職員が書く方法が挙げたが一日の様子はリーダーが書くことが多い ・記録を読めていない事があり、把握するのが遅くなってしまうことがあった	

III. 現状の取り組みについて

I-①~④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
・ゆっくり個別に話を聞くことが不足している ・もっと利用者に寄り添い生活歴をつかむ必要があった ・支援や変化は記録に残したりミーティングなどで共有しているが職員全員にはなかなか伝わらないと感 じることがある	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・記録を漏らさず「書く」「読む」少しの変化にも気づき、それに対する支援と情報共有を意識していく

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年11月10日

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 古寺 友美・山田 郁恵・小川 君恵・菅原 千春

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?		1	3	6	10
②	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	1	5	2	2	10
③	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?		4	6		10
④	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?		5	4	1	10
⑤	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	1	2	4	3	10

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	
・自治会の行事にすすんで参加し、地域の人や環境を知る	
② 前回の改善計画に対する取組み結果	A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない
コロナの関係で行事参加は殆どできなかった。	
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	
・自治会の行事(花植え、毎月の廃品回収)の協力は出来ている ・元町の職員や民生委員に地域のことを聞いたりしている ・地域の人や環境等は職員間で共有できていた	
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点	
・コロナの影響で地域の方たちとの関わりや行事が出来ていない	

III. 現状の取組みについて

I-①~④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
・コロナの関係もあり率先して地域には出向いていなく、利用者と地域の方との関わりが減ることがあった ・社会資源の在り方の理解が欠けていた。より良い暮らしのためにもっと勉強が必要だった	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・継続

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年11月10日

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 古寺 友美・山田 郁恵・小川 君恵・菅原 千春

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?		5	2	3	10
②	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	1	4	4	1	10
③	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	6	4			10
④	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	5	5			10
⑤	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	4	5	1		10

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	
	<ul style="list-style-type: none">・家族との情報を共有し利用者が住み慣れた地域での生活が継続できるよう支援していく。・利用者が地域での活動や行事参加などができるように家族や地域の方に働きかけていく。
② 前回の改善計画に対する取組み結果	A:よくできている ②:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない
	<ul style="list-style-type: none">・サービスを利用し自宅での生活が継続出来ている。
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	
	<ul style="list-style-type: none">・サービスを利用し自宅での生活が継続出来ている・地域での活動に参加されている利用者もいる
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点	
	<ul style="list-style-type: none">・家族と利用者との関係で解決出来ていない事例もある・コロナの影響で地域行事が減り地域との交流が少なかった・行事参加はもっと働きかけて良いと感じた。施設の中で過ごす時間が多くストレスの原因にもなると考える

III. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
	<ul style="list-style-type: none">・コロナの関係もあり地域交流が出来ていない・地域の資源を理解出来ていない・その日、その時の本人の状況やニーズに合わせた支援が出来ていなく、その方の特徴をつかむ(表情、行動、言動等)を常に見て気づく力が必要

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

	<ul style="list-style-type: none">・家族との情報を共有し利用者が住み慣れた地域での生活が継続できるよう気づきや変化を見逃さず支援していく。
--	--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年11月10日

6. 連携・協働

メンバー 古寺 友美・山田 郁恵・小川 君恵・菅原 千春

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?		2	2	6	10
①	その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)との会議を行っていますか?		2		8	10
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?		2	2	6	10
③	地域の各種機関・団体(自治会、町内会、婦人会、消防団等)の活動やイベントに参加していますか?				10	10
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?		2		8	10

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	・地域の相談窓口として地域を知り、地域での困りごとなどを吸い上げていく体制作りをしていく
② 前回の改善計画に対する取組み結果	A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない コロナの関係で地域との交流が無く、相談窓口としての広報活動もまだまだ不十分だった。地域を知るころまでは至らなかった。
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	・民生委員や運営推進会議を通し困りごと等の確認はしている ・地域での困りごと等の体制作りはお便り等にも記載し知らせている
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点	・コロナの影響で陽だまり喫茶が開催できず、相談窓口としての体制作りが進まなかった ・コロナの関係で地域との交流が無く、相談窓口としての広報活動もまだまだ不十分だった ・体制作りは行えているが実際に来られた時の対応も考えていく必要がある

III. 現状の取組みについて

I-①~④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること ・サービス担当者会議が十分に実施出来ていない ・コロナの関係で児童との交流は出来ず、イベントの実施や参加も出来ず ・いつ地域の活動が行われているかも把握できていないため、もっと関心を持つ必要があった
------------------------	---

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・継続

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年11月10日

7. 運営

メンバー 古寺 友美・山田 郁恵・小川 君恵・菅原 千春

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2	7	1		10
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができますか?	1	6	3		10
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	2	6		2	10
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	4	2	3	10
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取り組みを行っていますか?		2	3	5	10

II. 前回の改善計画に対する取り組み状況

① 前回の改善計画	・会議には全員意識を持って参加し、意見するときは提案する形で行う
② 前回の改善計画に対する取り組み結果	A:よくできている ⑩:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない 会議のあり方について検討し実施し始めており、職員の意識も変わってきた。
③ 前回の改善計画に対する取り組み結果について、できている点	・会議のあり方について検討し実施し始めている ・他職員の意見は最後まで聞き、提案する形で意見出来ている ・何のための会議なのかを理解して参加できた
④ 前回の改善計画に対する取り組み結果について、できていない点	・意識の部分では個々の価値観もあり、まとまる(同じ目標に向かう等)協働に対しては不足している感じがある ・意見するときの発言によって会議のあり方が変わることもあり、意識が欠けていた ・あまり発言出来ていなかった。意識を持って積極的に発言すべきだった

III. 現状の取り組みについて

I-①~④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
・事業所のあり方については内部研修等が必要と思う ・コロナの影響で地域との協働した取り組みは出来ていない ・レクや施設の動き方等もっと見直しが見直しができたのではないかと	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・継続

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年11月10日

8. 質を向上するための取組み

メンバー 古寺 友美・山田 郁恵・小川 君恵・菅原 千春

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	3	3	2	2	10
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	3	3	2	2	10
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	3	2	2	3	10
③	地域連絡会に参加していますか		2		8	10
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	1	5	4		10

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	
・研修会にすすんで参加する ・ヒヤリハットで繰り返す事例については、職員全員に周知し意識づけを継続し改善後に評価をする	
② 前回の改善計画に対する取組み結果	A:よくできている ⑩:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない コロナの関係で研修回数は少なかったが、意識した参加はあった。 ヒヤリハットの取組みも継続し気づきの部分では多く上がっている。
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	・できる限り研修会に参加出来ている ・ヒヤリハットにも取組み他事業所でも実施したいと意見あり提供している ・ヒヤリハットを継続し会議での再検討もしている
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点	・同様のヒヤリハットが繰り返されることがあり、改善後の評価が出来ていない ・研修会は参加できる人数制限があり参加出来ていない ・コロナの関係で研修があまりなかった

III. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
・内部研修の実施 ・地域連絡会には参加出来ていないが、会議の内容は共有できている ・職場外の研修等には自らすすんで参加出来ていないが、スキルアップのために参加すべきであった ・どうゆう内容か理解不足のため何もできていない ・リスクマネジメントができていない	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・継続

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年11月10日

9. 人権・プライバシー

メンバー 古寺 友美・山田 郁恵・小川 君恵・菅原 千春

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2	8			10
①	身体拘束をしていない	9	1			10
②	虐待は行われていない	10				10
③	プライバシーが守られている	2	8			10
④	必要な方に成年後見制度を活用している	8	2			10
⑤	適正な個人情報の管理ができています	1	9			10

II. 前回の改善計画に対する取り組み状況

① 前回の改善計画	
・スピーチロック(言葉での抑制)を意識して利用者と接する。	
② 前回の改善計画に対する取り組み結果	A:よくできている ⑩:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない
馴れ馴れしい言葉使いや自己都合での声掛けも見られるが、利用者に合わせた言葉使いを意識してはいる。	
③ 前回の改善計画に対する取り組み結果について、できている点	
・言葉の抑制に気を付けて接している ・利用者に合わせた話し方を意識して関わっている ・	
④ 前回の改善計画に対する取り組み結果について、できていない点	
・馴れ馴れしい言葉使いをしてしまう事もあり、今後気を付けていきたい ・自分の都合で言葉のかけ方を間違っているときがある ・何気ない会話も意識していくことにより、より良いケアになると感じた	

III. 現状の取り組みについて

I-①~④、及びその他について改善が必要な点	改善が必要な点と、その理由を記入すること
・事務所がオープンスペースであり、すべての情報が管理出来ているとは言えない ・成年後見制度の関わりがないためできていない ・入浴時の羞恥心への配慮や声掛けでのプライバシー等も気を付ける必要がある	

IV. 次回までの具体的な改善計画 ※II-④、IIIを中心に導き出した結果

・継続

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 本別町社会福祉協議会	代表者	会長 砂原 勝	法人・ 事業所 の特徴	本別町社会福祉協議会が運営する事業所。 本別町市街地からは離れた所に立地している。 地域住民の方々の理解と協力を得ながら運営しており、利用者の方々の住み慣れた地域 で生活していただくという考えのもと、地域密着型の介護保険事業所としてその機能を 担っている。
事業所名	仙美里小規模多機能型居 宅介護事業所 「陽だまりの里」	管理者	管理者 古寺 友美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	・各項目に対して、目標値が可視化できるものは数値を設定していく。(事業所だよりの発行・陽だまり喫茶の開催など)	B～Fの項目と違って、事業所でどのように自分たち(自事業所)を評価したかについての評価になるため、B～Fと混同しないようにAの項目については別に意見を募る程度の位置づけとした。		Aの項目については今後も事業所自己評価については、運営推進委員に周知した上で意見を募る。
B. 事業所の しつらえ・環境	・事務所がオープンスペースになっており、気軽にコミュニケーションをとれるようになっているが、個人情報を含まない書類等が煩雑になっているので、整理する。	令和2年度はコロナの影響が大きく、施設内に来客者を入れたり、面会が制限されたりする中、玄関先での対応が今後は多くなると考えられる。 そのため、本別町社協として、タブレット等を各事業所に導入し、オンラインでの面会ができるようにした。		引き続き、事業所内の整理・整頓に努める。 また、コロナ禍終息の見通しが立たないため、ICT機器の活用と合わせて、事業所の敷地すべてを活用しながら、閉塞感の無いサービス提供を目指す。
C. 事業所と地域の かかわり	・随時相談を受け付けていることを引き続き事業所だよりで宣伝するとともに、陽だまり喫茶時に小上がりスペースを活用し相談スペースを設ける。 ・ウェルカムボードの上に相談受付の看板を設置する。 ・運営推進会議時に相談件数や内容を報告する。	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、地域との交流機会が大きく減少した。 上記にあるように、施設内に来客を入れることが制限されているので、玄関先での来客対応になっている。 また、地域交流行事についても、従来通りの実施ができない状況である。		従来のように積極的に人と人との交流機会が設けられない状況ではあるが、事業所から地域にむけて発信すべきことは事業所だよりに通じて積極的に発信・情報提供を引き続き行う。 また、地域における困りごと相談の窓口としての機能であることのPRも継続する。

<p>D. 地域に向いて 本人の暮らしを 支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自治会主催の花植や焼肉交流会について、自治会の承諾が得られれば、利用者とともに積極的に参加していく。 自治会の総会・懇親会にも多くの参加を目指していく。 	<p>上記にある通り、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、利用者の外出や地域住民の方々の来所も大きく制限せざるを得ない状況であり、交流の機会が大きく減少した。</p> <p>コロナ禍の見通しが立たない中で、利用者と地域との関わりが切れないために、どのように支援するかが新たな課題となっている。</p>		<p>コロナ禍ではあるものの、利用者、事業所、地域とのつながりが途切れてしまわないように、ICT機器を積極的に活用したり、広報等を通じて事業所から発信したり、地域のニーズを把握する工夫を重ねていく。</p>
<p>E. 運営推進会議を 活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、民生委員との情報共有を図っていく。 	<p>運営推進会議が書面会議に代替せざるを得ない状況であったが、引き続き、運営推進会議委員や民生委員等との情報共有に努めている。</p>		<p>今後も書面開催になる機会があると考えられるが、引き続き、運営推進会議を通して、民生委員、地域住民等と連携しながら、情報共有を図る。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 気象庁の警報基準等が頻繁に変わるため、非常災害対策計画の作り直しが進んでいないため、最新の情報に基づいた計画に改める。 水害時の避難訓練についても検討を行う。 	<p>地域と協働による防災訓練は実施できなかったが、事業所単独での訓練は実施できた。</p> <p>コロナ禍において、地域等と協働しながらの訓練は困難と思われるが、防災訓練のあり方をどのようにするかが課題となっている。</p>		<p>コロナ禍前と比べて、コロナ禍における防災・災害対策にはどのような配慮が必要かを整理し、事業所単独で防災訓練等を実施しなければならぬ状況であっても、地域と情報共有しながら、防災・災害対策に努める。</p>

